

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上である。	一人一人の生徒が、達成感や自己肯定感を得られるように、授業や学校行事を進める。 学習内容の効果的な定着が図れる授業の展開と学習に集中できる環境づくりを行う。 「総合的な探究の時間」「課題研究」、学年別体験学習・講演会等の機会に地域の方を講師として交流を図るとともに、地域に対する視野を広げる活動を推進する。 地域の団体・施設等と連携し、「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」を積極的に推進する。	B	生徒B 保護者A	二者面談やアンケートの結果を生かし、学校に興味・関心をもつ対応を行う。	B	生徒B 保護者B	コースの特色を活かした授業や行事をこれからも実践し、達成感が得られる指導に繋げる。 学習環境整備に努め、生徒の実態にあった指導を今後も実践し生徒の充実度を上げる。
		② 習熟度別や少人数制の授業形態に満足している生徒が70%以上である。		③ 「総合的な探究の時間」や学年行事等に、意欲的に取り組んだ生徒が70%以上である。	A	生徒A 保護者A	より満足する学習環境づくりを各教科担当者が実践し、生徒の充実度を高める。	A	生徒A 保護者A
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 地域と連携し、地域の教育力を活用していますか。	④ 「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」等の地域と連携した事業や諸活動に意欲的に参加した生徒が70%以上である。	教員相互の授業参観や研修を重ね、授業改善に努める。また、生徒の学習状況をみとり、情報の共有化を図る。 学習習慣の確立や資格取得の重要性を保護者にも理解してもらい、積極的な取組を促す。 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を実践する。 基礎的内容の反復から自ら考え解決できるようになるまで、それぞれの段階に応じた指導をする。また、個別の指導も推進する。	A	生徒A 保護者A	結果に満足せず、今後より充実した内容(地域との連携を強化)になるように対応する。	A	生徒A 保護者A	地域の団体・施設等との連携を一層深め、少しでも多くの生徒の参加を促す。
		⑤ 「学び直し学習」や「学び合い学習」を取り入れた授業がわかりやすいと考えている生徒が70%以上である。		⑥ 多様な進路に対応した学習が役立っていると評価している生徒が70%以上である。	A	生徒A 保護者A	生徒が活動できる場をさらに設定することで多くの生徒が関われる行事を検討する。	A	生徒A 保護者A
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑦ 授業に真面目に取り組んでいると自己評価している生徒が70%以上である。	⑧ 学力の定着を図る指導を充実させ、学力が向上したと自己評価している生徒が70%以上である。	A	生徒A 保護者A	コースの特色を生かした授業内容・形態及び資格取得に向けた指導を実施する。	A	生徒A 保護者A	多様な進路希望に対応できるように授業内容のさらなる改善に努める。
		⑨ 年3回以上の面談指導を行い、面談が役立ったと感じている生徒が70%以上である。		⑩ 部活動に加入し、継続的に活動している生徒が50%以上である。	A	生徒A 保護者A	授業規律の確保に努めるとともに、生徒が主体的に学習できる場を増やしていく。	A	生徒A 保護者A
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑪ 情報モラルや交通安全、健康に関する講話等が役立ったと評価する生徒が70%以上である。	⑫ 欠席率5%以下、遅刻率3%以下である。	A	生徒A 保護者A	基礎的内容の反復から自ら考えて解決へ向けての道筋を段階に応じて指導し、個別の指導も実施する。	A	生徒A 保護者A	基礎的内容の定着を図り、教科・学年が連携し、授業計画を修正しながら個々の生徒に必要な支援を行っていく。
		⑫ 本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。		⑬ 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	B	生徒B 保護者B	面談週間のみならず、授業や清掃、行事等で教師からの声かけを実施する。スクールカウンセラーとも連携を図り、生徒の不安解消に努める。	B	生徒B 保護者B
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑬ 情報モラルや交通安全、健康に関する講話等が役立ったと評価する生徒が70%以上である。	⑭ 欠席率5%以下、遅刻率3%以下である。	B	生徒A 保護者B	設置部活の精選、活動内容を弾力的に見直すことで充実度を上げていく。	B	生徒C 保護者C	設置する部活動を精選し、活動の充実を図る。充実感が得られる部活動づくりを継続する。 今後も各種機関との連携を図り、健康・安全教育を実践していく。
		⑭ 学校はいじめの防止と早期発見を積極的に行っていると感じている生徒が85%以上である。	⑮ 本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。	A	生徒A 保護者A	実生活で身近な例を盛り込んだ講演会を実施した。今後も、学校生活に生かせる内容のものを取り入れる。	A	生徒A 保護者A	定期的な服装・頭髪指導、授業規律の徹底、日常生活における声かけなどを粘り強く行い、生徒の規範意識向上に努める。
VI 教育のデジタル化に努めていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑮ 進路ファイル(含キャリアパスポート)に前向きに取り組んでいる生徒が70%以上である。	⑯ 本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。	A	生徒A 保護者A	生徒への粘り強い指導や保護者との連絡を密に行う。また、スクールカウンセラーとの連携をさらに強化する。	A	生徒A 保護者A	長期欠席の生徒には密な連絡や家庭訪問の実施を通じて保護者との連携を強めていく。外部機関との連携も視野に入れ、随時行っていく。
		⑯ 「将来の職業」や「卒業後の進路」について前向きに考えている生徒が70%以上である。	⑰ 学校はいじめの防止と早期発見を積極的に行っていると感じている生徒が85%以上である。	A	生徒A 保護者A	多くの生徒が校内ルールを遵守して学校生活を送れている。今後も進路を見据え、生徒自ら規範意識が向上できるようにする。	A	生徒A 保護者A	定期的な服装・頭髪指導、授業規律の徹底、日常生活における声かけなどを粘り強く行い、生徒の規範意識向上に努める。
VII 教育のデジタル化に努めていますか。	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑰ 「将来の職業」や「卒業後の進路」について前向きに考えている生徒が70%以上である。	⑱ 「学校の様子がよく分かる」と感じている保護者が70%以上である。	B	生徒C 保護者C	アンケートや面談に限らず、生徒の様子や生徒からの申し出・情報に対して迅速に対応する。また、組織的な対応を行うために職員間の情報共有を日常的に行う。	B	生徒C 保護者C	アンケート・面談等による情報収集や職員間の情報共有を図り、早期発見・早期解決に努めていく。生徒主体のいじめ防止活動を増やすことでいじめを許さない心を育てる。
		⑱ 「学校の様子がよく分かる」と感じている保護者が70%以上である。	⑲ 「学校の様子がよく分かる」と感じている保護者が70%以上である。	A	生徒A	『進路ファイル』の取り組み状況を進路指導部を中心に定期的に確認する。	A	生徒A	『進路ファイル』を活用した振り返り時間を確保し、今後も進路に関する機会を設けていく。
VIII 教育のデジタル化に努めていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑲ 「学校の様子がよく分かる」と感じている保護者が70%以上である。	⑳ PTA関係行事への保護者の参加が40%以上である。	A	生徒A 保護者A	進路行事を精選しながら生徒の興味・関心を引き出せるようにする。	A	生徒A 保護者A	進路行事の内容を点検し、外部機関とも連携しながら進路に対する興味・関心を高める。
		⑳ PTA関係行事への保護者の参加が40%以上である。	㉑ ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	A	生徒A 保護者A	生徒の進路に対する現在の考えを家庭でも共有できるように進路調査をもとに働きかけていく。 『進路のてびき』や進路に関する資料の活用を通して、進路について家庭での話し合いを促す。	A	生徒A 保護者A	『進路ファイル』の活用を手がかりに進路調査も踏まえ、将来の進路に役立たせる。 『進路のてびき』や三者面談等を活用し、生徒・保護者が進路について話し合うよう促す。
IX 教育のデジタル化に努めていますか。	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	㉑ ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	㉒ PTA関係行事への保護者の参加が40%以上である。	A	生徒A 保護者A	『進路ファイル』を活用し、毎月、進路学習の時間を設け、取り組ませ、将来についての意欲を喚起する。 『進路のてびき』を家庭用にも配布し、生徒と保護者で進路に対する共通認識を深めてもらうよう働きかける。	A	生徒A 保護者A	さらなる広報活動を図るため、WEBページの更新を随時行う。本校の特色が伝わるように工夫するとともにHPへのアクセスを促す。
		㉒ ICTを活用した通知等に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	㉓ ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉓ ICTを活用した通知等に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	A	保護者A	WEBページや学校通信、電子メール等を利用して保護者や地域に情報を発信するとともに、授業を一般公開していく。また、全学年で三者面談を行い、学校と家庭で情報の共有化を図る。 定期的にPTA運営委員会を開催し、現状に応じた対応策を検討していく。	B	保護者B
X 教育のデジタル化に努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	㉓ ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉔ ICTを活用した通知等に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	B	保護者B	学校・PTA役員・保護者間の連携を図りつつ、保護者への情報発信・呼びかけを継続していく。	B	保護者B	PTA行事への参加率向上に向け、行事の点検や見直しを引き続き行っていく。
		㉔ ICTを活用した通知等に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	㉕ ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉕ ICTを活用した通知等に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	A	生徒A	ICT機器の特性を生かした授業を工夫するとともに、教員相互の授業参観や研修で内容を充実させる。 アンケート結果を踏まえ、通知内容やWebページのアップデートを行っていく。	A	生徒A 保護者A
XI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉕ ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉖ ICTを活用した通知等に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	A	生徒A 保護者A	授業評価アンケートの活用や教員相互の授業参観及び校内研修を実施し、授業改善を図る。 通知内容や方法の見直しを行い、生徒・保護者に必要な情報を迅速かつ分かりやすく発信するとともに、Webアンケートを実施する。	A	生徒A 保護者A	授業参観や研修を充実させる。 WEBアンケートや通知等の内容を常に見直すことで良いものにしていく。
		㉖ ICTを活用した通知等に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	㉗ ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉗ ICTを活用した通知等に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	A	生徒A 保護者A	授業参観や研修で内容を充実させる。 アンケート結果を踏まえ、通知内容やWebページのアップデートを行っていく。	A	生徒A 保護者A

